



2007年、1ジャンル専攻の雑誌『音響』に代わって新たな専攻ジャンルとして設立された。その名は「ジャパネチカ調査団」である。音響の魅力を追求し、最新の音響技術や製品を調査・レポートする。また、音響の魅力を追求し、最新の音響技術や製品を調査・レポートする。また、音響の魅力を追求し、最新の音響技術や製品を調査・レポートする。

第42回定期報告 波動スピーカー

音楽を楽しむために必須となるのがスピーカーだが、それでは構造的に生演奏のような音の広がりを再現するのはきわめて困難である。しかし、今回調査した「波動スピーカー」は、そんな音響の世界の定説をくつがえす世にも不思議なスピーカーなのだ。



波動スピーカーの3タイプ。中央が標準型サイズのMS1001-M、左がミニサイズのMS1001-L、右が特大サイズのMS1001-ME。写真はMS1001-M。



ショールームでは、だれでも試聴することができる(平日は要予約)。右、1ch用スピーカーや、iPodなどにつなげて使うためのアンペア内蔵タイプなどもラインアップされている。

ナゾの機構で 独特の臨場感をつくり出す

「さっそく試聴するよ……」
「フグちゃん、職員ノグチくん。私は音楽が好きなんだが、ふたつのスピーカーの正面の真ん中に座ると、もうぐっぐっくような場所もない、時間もない。いいよ、そのスピーカーは1個でもいいから、聴く場所を違はせずにイヤを出してくれるスピーカーはないものか?、以前から思っているのだが……」
「まあ、販売事務手ねらおもしいスピーカーがあります。EMSシステムの「波動スピーカー」です。」
「波動……?」ガキンス帝国の前線基地を離脱させたヤツが、職員ノグチくん。」「宇宙船艦隊ヤマトに搭載されているような物騒なものでないです。まあ、販売事務手、ホテル「ザ・リッツ・カールトン」東京のスイートルームに置かれていたりするんですよ。」
「ほら、「波動ナントカ」という名前から想像するほど、さくさくさいものじゃないよ。たね、職員ノグチくん……ぜひ調査に行ってみようか。」
「どうわけ、われわれは波動スピーカーを製造販売しているEMSシステムを訪ねた。さて、この波動スピーカー、一体は円筒形で、その両端にスピーカーユニットがついている。サイズは標準モデルのMS1001-Mで標準21cmの長さ、4cmの厚さからなりコンパクトだ。」
「まあ、販売事務手、さっそく音楽を聴かせてもらえそうです。」



MS1001-Mのスピーカーユニット。スピーカーユニットの下には、バスレフのポートのような穴が開いている(左右ともに)。



波動スピーカーに使われているスピーカーユニット自体は、特別高価なものではないという。ただ、背中あわせで正確配置するというレイアウトには理由があるという。

「ふむ、どれとどれ……おおー。サックスが中央に、トラムが左右に並んで聞かせる。しかも、あんなに音が移動して、まるで音が自分から移動してきているかのような感じが聞かせる。しかも、あんなに音が移動して、まるで音が自分から移動してきているかのような感じが聞かせる。しかも、あんなに音が移動して、まるで音が自分から移動してきているかのような感じが聞かせる。」

「なんと、これだけ不思議な体験をして、仕組みの秘密は「波動」なんだ。」
「はい、ええ、それではお話を聞かせてください。」
「まず、円筒形の本体側面部分に、スピーカーから音が聞かせる。そのまわりから、音が立体的に聞かせるのである。そのまわりから、音が立体的に聞かせるのである。そのまわりから、音が立体的に聞かせるのである。」

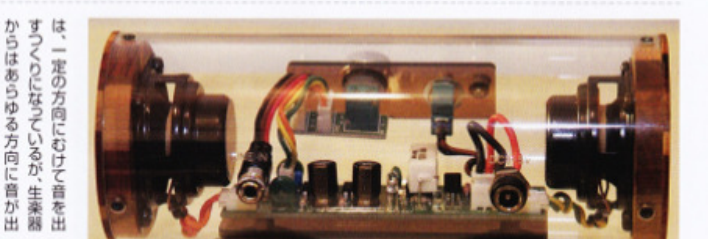
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」

「ケータンOPTIONAL」
「ジャパネチカ調査団が見られる」
「いますぐサイトへGO!」
「Option」
「いますぐサイトへGO!」

「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」

「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」

「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」



「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」

「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」
「仕組みの秘密は……」